

## 食でつながる世界と自分！自然と自分！

<b>所属</b>	浜松市立北浜東小学校	<b>実践者</b>	笹ヶ瀬 菜生
<b>対象</b>	小学4年生(21人)	<b>時間数</b>	8時間
<b>場所</b>	教室	<b>実践教科</b>	学活、道徳
<b>ねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食を通して自分と自然、自分と世界とのつながりに関心をもつ。</li> <li>・自然を大切にすることを育み、自分にできることを実践しようとする。</li> <li>・日本にも外国にもそれぞれの国の良さがあることに気付く。</li> </ul>		
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備考</b>
	1	◆わたしたちの食べているものはどんなもの？ ①「ぼく、わたしの食べたもの調べ」を見て気付いたことを話し合う。 ②友達と紹介し合い、共通点や違いを見付ける。	農林水産省パンフレット「ニッポン食べもの力見つけ隊」 写真「地球の食卓—世界24か国の家族のごはん」TOTO 出版  パラグアイで購入したもの(マテ茶の茶葉、お菓子、水筒など)  パラグアイの食事の写真  環境問題の写真 地域の自然の写真  パラグアイで撮影した動画
	2	◆外国ではどんなものを食べているのかな？ ①日本の食卓に並ぶもので外国産のものはどのくらいあるのか知る。	
	3	②外国の1週間分の食料と家族の写真を見て、どの国のどんな家族か想像する。日本との共通点や違いを見付ける。	
	4	◆お茶タイム！マテ茶とチパのお菓子を味わおう ①マテ茶の茶葉やチパのスナックに触れ、味わい、異文化を体験する。 ②初めて行った国で知らない食べ物に出会ったらどうするか考える。	
	5	◆パラグアイと日本の食事を比べてみよう ①パラグアイの写真を見てどんな場面の写真か想像し、話し合う。 ②パラグアイの人々の気持ちや考えを知る。 ③日本とパラグアイそれぞれの国の良さを見付ける。	
	6	◆びっくり！もしも〈野菜〉が無くなったらどうなる？ ①もしも野菜が無くなったらどうなるか意見を出し合う。	
	7	②どんなことが起きたら野菜が無くなってしまおうか考える。 ③世界でどんなことが起きているか知り、地域の環境を振り返る。	
	8	◆シシリアさんの生活や考え方をのぞいてみよう&ぼく、わたし宣言 ①パラグアイの小農家シシリアさんの畑の様子や活動の説明、インタビューの動画を視聴する。 ②動画を見て心に残ったことやシシリアさんから受け取った思いを書く。 ③自分にできることを考えて「ぼく、わたし宣言」を発表する。	
<b>成果</b>	パラグアイという全く知らなかった国と肯定的に出会い、他の国と日本との違いに興味をもったり、違いを楽しむようになったりした。また、自分の考える当たり前が当たり前ではないことに気付く子が多かった。写真や動画、実物などを授業で使用したり、参加型で行ったりすることで、進んで自分の考えを伝えたり、相手の話を聞いたりする子が増え、「またやりたい！」という声があがった。		
<b>課題</b>	教師の伝えたい思いが先行し、自然との共生について子どもたち自身が考える時間をあまりとれなかった。子ども自身が発信する場面を増やすことや、課題を自分のこととして見たり、身近なものとしてとらえたりできるような工夫、目的を絞った流れのあるプログラム作りが必要であった。		
<b>備考</b>			

## [授業実践の詳細]

### 1 時限目「わたしたちの食べているものはどんなもの？」

#### この時限のねらい

- ・自分たちの食べているものを通して自分と世界とのつながりを感じる。
- ・食べたもの調べを友達と交流することで自分と友達の共通点や違いに気付く。

#### 1 子どもの活動の流れ

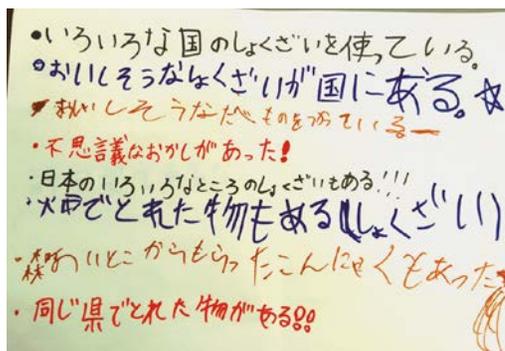
- ① アイスブレーキング「仲間さがし」
  - ・お題:味噌汁の具、白いご飯にかけるもの
- ② 「ぼく/わたしの食べたもの調べ」(家で調べたもの)を見てみよう。
  - ・おやつ、夕食のメニュー、材料、産地を家庭で調べて書いてきたものを、班で紹介する。
  - ・自分たちの食べているものについて気付いたことを話し合い、書き出す。【箇条書き】
  - ・班で考えたことを全体で共有する。【ポップコーン方式】
- ③ 今日の授業で感じたこと考えたことを書こう。



<食べもの調べを紹介し合う様子>

#### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 多くの子が、国産のものや家の畑でとれたものを食べていたため、世界とのつながりに気付く子は少なかった。外国産のフルーツやお肉を食べている子もいたため、班で紹介し合う中で気付ける子もいた。
- ◇ 感想では、「静岡産のものを食べている。」「日本のもの以外食べたことがないから食べてみたい。」「いろいろな国から食材が日本へ来ていることが分かった。」「いろいろな国で食材が違って不思議。」「お菓子を手作りしている人がいた。」「みんなご飯を食べていた。」などがあり、外国産のものを食べていることや、友達との違いに気付いている子もいた。



<食べているものについて気付いたことの成果物>

#### 3 使用した教材

- <教材1> ぼく・わたしの食べたもの調べ(宿題ワークシート)
- <教材2> 世界地図と日本地図

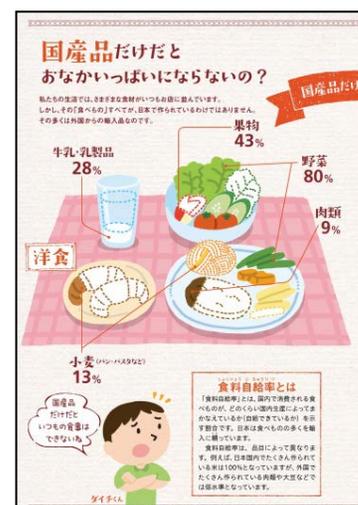
### 2-3 時限目「他の国ではどんなものを食べているのかな？」

#### この時限のねらい

- ・世界の多様な食料や家族と肯定的に出会い、自分たちとは異なることを知る。
- ・多様な食文化を知り紹介し合う中で、その違いをおもしろい！それもあり！と受け止める。

## 1 子どもの活動の流れ

- ① 日本の食卓に並ぶもので外国産のものはどのくらいあるのかな？
  - ・食事のイラストを見ながら、日本の食事ではどのくらい外国産のものが使われているかを知る。(前時で外国とのつながりを感じるまでに至らなかったため、農林水産省のパンフレットを提示し、説明した。)
- ② アイスブレーキング「一言自己紹介」
  - ・お題：一番行ってみたい国とその理由
- ③ 外国ではどんな物を食べているのか写真から想像しよう。
  - ・各班に異なる様々な国の家族の1週間分の食料の写真を配布する。
  - ・写真を見て、そこから想像したことを模造紙に書き出す。【フォトランゲージ】【ブレンストーミング】
  - ・自分の班の写真はどこかの国の食料か予想する。
- ④ その国の家族になりきって紹介しよう。
  - ・どんな家族で何を食べていると想像したか班ごとに発表する。



<拡大印刷して提示したパンフレット>

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 日本全体で見ると、食事の中で国産のものがどのくらいあるのか、イラストで視覚的に伝わりやすいものだったため、とても驚いていた。「どうして日本でできたものではないのか。」「なぜ食料自給率が減ってしまったのか。」と疑問を口にしていく子もいた。
- ◇ 外国の食料については、量、家族の人数、種類、日本では見たことがないものなどを写真を見て、「いいな。」「これ何だろう。」「こんだけ！」「こんなに！」「これは一緒。」などと積極的に話し合っていた。
- ◇ 各班が異なる国の写真であったため、違う班の発表を自分の班の国と比べながら聞く子もいた。



<写真から気付いたことを書く様子>



<担当した国について紹介する様子>

## 3 使用した教材

- <教材3> 農林水産省パンフレット『ニッポン食べもの力見つけ隊』
- <教材4> 写真『地球の食卓—世界24か国の家族のごはん』
- <教材5> 世界地図

## 4 時限目「お茶タイム！マテ茶とチパのお菓子を味わおう」

### この時限のねらい

- ・異なる文化をもつ国に関心をもち、パラグアイを身近に感じる。
- ・マテ茶やチパのお菓みに触れたり味わったりし、日本と異なる文化を五感で楽しむ。

## 1 子どもの活動の流れ

- ① どんな茶葉だろう？色、におい、感触を体験してみよう。
  - ・まずは、前で実物を提示し、その後実際にマテ茶の茶葉を手に取り、色やにおい、感触を体験する。

- ② 飲んだり食べたりしてみよう。(給食の時間)
  - ・テレレ、コシード、チパのお菓子を飲んだり食べたりして感じたことを近くの人と交流する。
- ③ マテ茶って？パラグアイでの先生のマテ茶体験を知る。
  - ・パラグアイでマテ茶を初めて飲んだ時のこと、青年協力隊から聞いたマテ茶の話、テレレを見聞きしたことなど、教師がパラグアイで感じたことを話す。

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 子どもたちは、「本物だ！本物だ！」ととてもうれしそうな反応だった。茶葉の見た目は、「日本の緑茶と似ている。」と言った子もいた。触ったりにおいをかいだりすると、「においが全然違う。」「飲めないかも。」「苦そう。」と少し後ろ向きになりそうであったが、恐る恐るではあるものの口にしていた。
- ◇ パラグアイの味を知り、日本との違いを意識した子が多くいた。「想像していたものとちょっと違った。」「ミルクティに似ている！」「家の人にあげたい。」と、違うことを拒絶するのではなく、挑戦し楽しんでいる様子も見られた。
- ◇ 自分の知らない食べものに出会ったときにどうするか尋ねると、「一口は食べてみる。」「これは何？と聞く。」「どうしても食べられそうになかったら理由を伝える。」といった意見が出た。



<チパのお菓子上に挑戦する様子>

## 3 使用した教材

- <教材6> マテ茶の茶葉、コシード(コシード用粉末、牛乳、砂糖)
- <教材7> マテ茶、テレレ用カップとストロー
- <教材8> チパのお菓子
- <教材9> マテ茶やチパなどパラグアイで撮った写真

# 5 時限目「パラグアイと日本の食事を比べてみよう」

### この時限のねらい

- ・パラグアイの食文化を知り、自分たちとの共通点や違いに気付く。
- ・異なる食文化の中で、パラグアイの良さと日本の良さを見付けようとする。

## 1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレーキング「3択クイズ」
  - ・クイズ:先生がパラグアイで食べたもので一番心に残っている食事はどれでしょう
- ② パラグアイの写真を見てどんな場面の写真か想像してみよう。【フォトランゲージ】(班活動)
  - ・6枚の写真(「1 テレレ(冷たいマテ茶を回し飲みすること)」「2 庭で肉を焼く」「3 家族で昼食を食べる」「4 庭にいる豚や鶏」「5 昼食の料理」「6 薬草を売るお兄さん)を見て、どのような場面の写真か班で話し合う。
  - ・パラグアイの人々の思いや会話を載せた写真を説明する資料を配布し、教師の説明を聞く。
- ③ 日本とパラグアイそれぞれの国の良さを見付けよう。【対比表】(班活動)
  - ・それぞれの国の食文化を比べ、共通点や違いを見付ける。
  - ⇒それぞれの国の良さを対比表に書く。



<どんな写真か話し合う様子>

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ アイスブレーキングでは、答えが分かれ、興味津々で正解を待つ姿が印象的だった。
- ◇ 食事の写真や動物の写真は、どんな写真か想像できていたが、テレレや薬草を売る写真については、日本で見たことのない光景のため苦戦していた。
- ◇ それぞれの国の良さを見付けるときに、配布した資料から読み取るだけになり、良さを実感することが難しかった。想像するだけでなく、体験や自分の身の回りの生活とじっくり比べて気付けるような手立てが必要であった。
- ◇ 見付けたそれぞれの国の良さの例

### <パラグアイ>

- ・家族で食べている。笑顔。
- ・自分たちで作ったものを食べている。
- ・テレレという文化がある。・お肉がたくさん
- ・手作業(手作り)している。 など

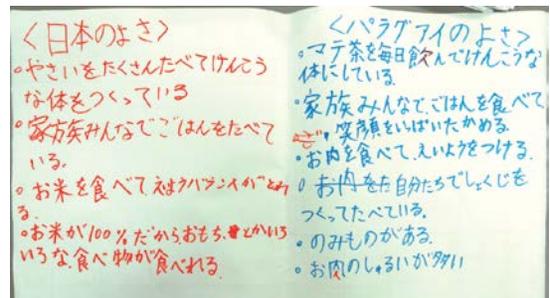
### <日本>

- ・家族で食べている。
- ・野菜やお米をたくさん食べている。
- ・栄養バランスがいい。
- ・中で食べていて虫が来ない。 など

## 3 使用した教材

- <教材10> 3 択クイズ用パワーポイント資料(食事)
- <教材11> パラグアイの食生活に関する写真 6 枚
- <教材12> パラグアイの人々の思いや考えの資料

<日本とパラグアイの良さ対比表の成果物>



## 6-7 時限目「びっくり!もしも<野菜>が無くなったらどうなる?」

### この時限のねらい

- ・身近なものが無くなることを想像し、それによって自分たちの生活が変化することに気付く。
- ・自分たちの生活に課題があることに気付いたり、身の回りにあるものの大切さを感じたりする。

## 1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレーキング「無人島ゲーム」
  - ・お題:無人島に持っていくものを10個決めよう(班活動)
- ② もしも野菜が無くなったらどうなる?【派生図】
  - ・パラグアイと日本を比べると野菜を食べる量や種類が少なかったことから、もし、野菜が無くなったらどうなるかを考えて、班で派生図を書く。途中で「食事から考えると」「健康から考えると」などの視点を与え、より多面的に考える。
- ③ いろいろな班の意見を知ろう。【〇マークを付ける】
  - ・派生図を書いた紙を回し読みし、「なるほど」「たしかに」と思った意見に〇を付ける。(今回は紙が小さすぎたため小さく〇マークで代用。普段は☆マーク)
- ④ どんなことが起きたら野菜が無くなるのか考えてみよう。



<野菜が無くなったら?を派生図にした成果物>

- ・野菜が育つために必要なものを全体で出し合い確認する。【ポップコーン方式】
- ・どんなことが起きたら無くなってしまうのかを班で話し合い発表する。
- ・写真を見ながら世界で起きている環境問題について知り、自分の身の回りの自然に思いを寄せる。

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 身近な野菜に焦点を当てたため想像しやすく、どんどん派生図を書くことができた。考える視点を提示することで、より考えを広げられた子が多くいた。しかし、本当に無くなったらどうしようと自分事として捉えることは難しく、手立てが必要であった。
- ◇ 他の班の意見を知り、驚いたり納得したりして、○マークがたくさん付いた。
- ◇ 地域の自然の写真を見ると、「前はここにたくさん木があった。」「畑が荒れている。」など、以前と比べようとする意識が見られた。

## 3 使用した教材

- <教材13> 砂漠化や地球温暖化などの環境問題の起きている国の写真
- <教材14> 学校や校区にある自然の写真

# 8 時限目「シシリアさんの生活や考え方をのぞいてみよう&ぼく、わたし宣言」

### この時限のねらい

- ・パラグアイ人のシシリアさんの思いや考えを知り、課題を解決していくために大切なことを考える。
- ・自然と共に生きるために、自分の身近なことでできることや挑戦したいことを考え、意欲をもつ。

## 1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレーキング「3択クイズ」
  - ・クイズ:シシリアさんはどんな人でしょう？
- ② シシリアさんの畑や活動の説明をビデオで見てみよう。
  - ・シシリアさんの畑の様子や作っている農作物のこと、農業をする際に心掛けていることを映したビデオを見る。
- ③ シシリアさんの伝えなかった思いはどんなことだろう？
  - ・ビデオを見て心に残ったことと、感じたシシリアさんの思いや考えを、それぞれ紙に書く。
  - ・紙に書いた自分の考えを班で話し、交流する。
  - ・学級全体に発表する。
- ④ 自分にできることを考えてみよう「ぼく、わたし宣言」
  - ・自然と共に生きていくために、自分ができることや気を付けたいこと、挑戦したいことを考え、「ぼく、わたし宣言」として紙に書く。
  - ・1対1で友達や教師に書いたものを宣言し、友達の宣言を聞く。



<シシリアさんの写真>

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ クイズでシシリアさんがどんな人か知り肯定的に出会うことができた。その後の動画も関心をもって見ていた。どの子も、日本と比べながら動画を見て、「似てる！」「へ～動物がこんなにいるんだ。」などとつぶやいていた。

◇ ぼく、わたし宣言はすぐにできる身近なことを考え、まずは冬休みに挑戦し、3 学期に振り返ることで行動に移してみた子が多くいた。自分から進んで継続できる学びや気付きをさせていきたい。

#### ◇ビデオを見て心に残ったこと

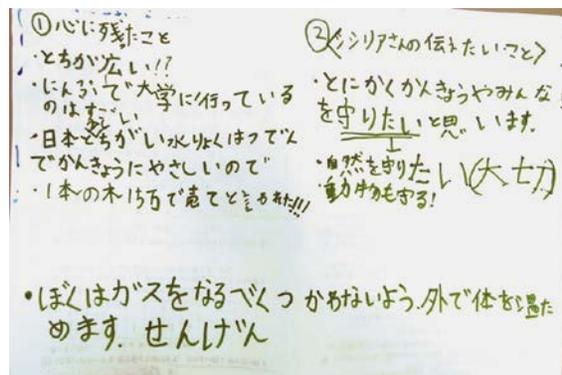
- ・畑がとても大きく、いっぱい植えてあってすごい
- ・みんなの環境を守る優しい人
- ・農薬をあまり使わない工夫
- ・シシリアさんの夢は「環境保全」ということ など

#### ◇シシリアさんの伝えたかった思いは？

- ・自分で野菜やお肉を作ること
- ・自然を大切にすること
- ・みんなで自然を大切にしていこう
- ・自然に優しくいたい など

#### ◇ぼく、わたし宣言

- ・ごみを持ち帰ります。見付けたら拾います。
- ・ごはんを残さず食べます。
- ・いつも植物に水をあげられていないので、毎日水をあげます。 など



<ぼく、わたし宣言の成果物>

### 3 使用した教材

<教材15> 3 択クイズ用パワーポイント資料(シシリアさん)

<教材16> パラグアイで撮影したシシリアさんのビデオ

## ■ 全体を通して

### 1 授業の様子

教師海外研修を通して、パラグアイという国と出会い、現地で直接見て肌で感じ、伝えたいと思ったことを、どうしたら子どもたちと共に学べるか、試行錯誤し続けながら授業を行った。授業を終えた後も、世界のことに関心を持ったり、ちがいを受け入れたり楽しんだりする様子が見られた。教師が伝えたいことだけではなく、子どもたちの思考に沿い、一人一人が自分ごととして考えられるようなプログラムの工夫を今後も探していきたい。

### 2 参考文献・資料

- 1)『知ってる？日本の食糧事情』『ニッポン食べもの力見つけ隊』／農林水産省 HP  
[http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu\\_ritu/panfu1.html](http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/panfu1.html)
- 2)世界の国を知る・世界の国から学ぶ『わたしたちの地球と未来』活用マニュアル Vol. 2  
 ／公益財団法人 愛知国際交流協会 HP <http://www2.aia.pref.aichi.jp/topj/indexj.html>
- 3)『地球の食卓—世界 24 か国の家族のごはん』／ピーター メンツェル著、フェイス ダルージオ著、みつち まちこ翻訳／TOTO 出版 2006